

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【徳力小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題が見られ、かつ思考・判断・表現についても同様に課題がある。その中でも、個人差が大きいことから個別に必要な支援を講じていく必要がある。タブレットの活用をさらに検討し、個別に蓄積されたデータを効果的に活かす方法を生み出していく。次年度に向けた改善策としては、国語「話すこと・聞くこと」の領域に、学校全体としてまだ課題が見られる事から、研修を通し全学年で系統的な指導ができるよう授業改善をしていく。
思考・判断・表現	算数の「数と計算」「測定」「変化と関係・データの活用」などに課題が見られた。問いに対し、何を聞かれているか理解が乏しく、かつ実際の体験と算数を結び付けることが難しい。そこで、「なぜ？どうしてそうなった？どこからそう考えた？」などを意図的に問い、根拠を明確にする活動を多く取り入れていく事や実際の生活の中での算数を意識できるように「場面を意識した課題や適用問題」を出題する。
主体的に学習に取り組む態度	ICTを活用して学習を積み重ねているという質問項目において、肯定的な回答の割合がどの学年も高い結果となっている。また、「〇〇の学習が好きか」の質問に対しても肯定的な回答が昨年度よりも向上している。この結果を維持するとともに、系統性を踏まえ全学年において、さらにICTを活用した振り返りの実施や記録の蓄積を図り、主体的に取り組む態度を育てていく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、各学年の国語・算数「知識・技能」の平均正答率において1pt以上向上させる。国語・算数の自校テストで「知識・技能」に関する平均正答率を1学期比105%以上にする。	書き込み式ドリルやドリルパーク、スタディサブリの活用や、学習スペースの活用を通して、一人ひとりの課題に合った個別最適な学習に繰り返し取り組ませる。一人1台端末を活用し、「じ・し・ゃ・く」を意識した児童主体の「さいたま市『アクティブラーニング』授業」を行う。
思考・判断・表現	R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、各学年の国語・算数「思考・判断・表現」の平均正答率において1pt以上向上させる。国語・算数の自校テストで「思考・判断・表現」に関する平均正答率を1学期比105%以上にする。	一人1台端末を活用し、思考を可視化し、互いに考えを伝え合うことで、比較・検討する協働的な学びの場を設定する。特にミライシードを活用し、児童の作品・レポートを相互評価したり、考えを共有したりすることによって、思考力・判断力・表現力を高めていく。
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査【学びに向かう力等】における「国語の学習は好きですか。」「算数の学習は好きですか。」の肯定的な回答の割合を令和4年度より1pt以上向上させる。「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	ICTを効果的に活用した魅力ある授業を行うことで、児童の「わかった・できた・楽しい」を引き出す。魅力ある導入や必要感のある課題設定、解決の見通しをもち自力解決する場を設定するなど、ICTを活用した振り返りを行い、学びの記録を蓄積する。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	ICT活用や、学習スペースの活用を通して、個別最適な学習に繰り返し取り組ませた。「じ・し・ゃ・く」を意識した児童主体の授業改善を研修内で行った。言葉の意味や特徴、使い方を捉える言葉集め、表・グラフから分かることの自己分析を各教科において継続指導し、3つの学年の国語・算数「知識・技能」の平均正答率において1pt以上向上させた。12pt向上する学年もあった。自校テストの学期比についても105%以上を達成する学年があった。	A
思考・判断・表現	ICTを活用し、思考を可視化し、互いに考えを伝え合う協働的な学びの場を繰り返し設定した。ミライシードは基より、Teams、Classnoteを活用した授業展開を多く行えた。また、授業参観等を通して共有することができた。見直し策の日常の場面を想起させる授業づくりの設定を心かけた。3つの学年の国語・算数「思考・判断・表現」の平均正答率において2pt以上向上させた。16pt向上する学年もあった。自校テストの学期比については横ばいであった。	B
主体的に学習に取り組む態度	ICTを効果的に活用した授業、魅力ある導入や必要感のある課題設定、解決の見通しをもち自力解決する場を設定した授業展開を多く行い、実践を教員間で共有した。Teams、Classnoteで学びの記録を蓄積した。質問紙において「国語・算数の学習は好きですか。」の肯定的な回答の割合を令和4年度より0.3~2.2pt以上向上させた。「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が6年が90%以上となり、令和4年度比は全学年で6pt向上した。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一步)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5調査とR4調査の自校の結果を比較すると、R5結果はR4から国語-2pt、数学-6ptであった。国語の言葉の特徴や使い方にに関する事項につまづく児童が多かった。算数の目的に応じてデータの特徴や傾向を読み取ったり捉えたりする事項につまづく児童が多かった。鑑みると、一つ一つの言葉の意味や特徴、使い方を捉える言葉集めや、表・グラフから分かることの自己分析を国語・算数以外の場面でも経験が少ないのではないのか。
思考・判断・表現	R5調査とR4調査の自校の結果を比較すると、R5結果はR4から国語-10pt、数学-12ptであった。国語の図表やグラフなどを用い、自分の考えを伝えることにつまづく児童が多かった。算数の日常の場面を想起し考える力につまづく児童が多かった。鑑みると、日常の場面を想起させる課題や表現の工夫を意識し授業づくりの推進がさらに必要ではないのか。
主体的に学習に取り組む態度	R5調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は100%で目標値に達している。より一層、「ICTを効果的に活用した魅力ある授業」を念頭に置き、年度当初目標を市の調査においても目指していく。さらに、調査の「計画を立てて勉強している」の回答に強い肯定的な回答(R5は全国比-4)が見て取れた。鑑みると、個別最適な家庭学習課題の設定がさらに必要ではないのか。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	国語算数ともにさいたま市の平均を下回る結果であった。国語では、「書くこと」の領域、算数では、「測定」の領域に大きな課題があった。国語の主語述語の理解、算数の図形の理解がある。文書を書く機会を多く設けることや実際に体験し学ぶ算数の展開を多く設ける必要がある。「〇〇の勉強は好きですか。」の学びに向かう力等を見る質問に関して、国語は昨年度比横ばいであるが、算数は肯定的回答が大きく上回っている。	小4	国語算数ともにさいたま市の平均を下回る結果であった。国語の「読むこと」に関しては、市の平均を6.6p上回ったが、その他の全ての領域で市の平均を下回った。特に主語と述語の理解について正答率が低いため、我が国の言語文化に積極的に触れ、繰り返し話したり書いたりする指導が必要である。算数では全ての領域で市の平均を下回った。特に「データの活用」に関しては、市の平均を大きく下回っており表を正しく見たり、グラフを正確に読み取ったりする指導の継続が必要である。
小5	4教科ともに、概ねさいたま市の平均と同等の正答率であった。国語の「言葉の特徴や使い方」や「書くこと」については、ある程度知識・技能の定着が見られるが、「話すこと・聞くこと」に関しては、市の平均を5.7p下回っており、正しい言語環境で表現する活動を継続したい。算数の「図形」に関しては市の平均を4.2p上回ったが、小数の減法や除法の計算や基準量や比較量に着目する問題については正答率が著しく低いため、知識・技能の定着を図る学習活動を継続する必要がある。	小6	4教科ともにさいたま市の平均を下回る結果であった。国語では、特に主語と述語の理解について正答率が低いため、我が国の言語文化に積極的に触れ、繰り返し話したり書いたりする指導が必要である。算数では、特に「変化と関係」に関して市の平均を大きく下回っており、問題の場面を把握する指導の工夫や、基準量・比較量・割合など、知識・技能の定着を図る学習活動を継続する必要がある。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	分析の通り ⇒ 一つ一つの言葉の意味や特徴、使い方を捉える言葉集めや、表・グラフから分かることの自己分析を国語・算数以外の場面でも行わせていく。
思考・判断・表現	変更なし	分析の通り ⇒ 日常の場面を想起させる課題や表現の工夫を意識し授業づくりを行っていくようにする。
主体的に学習に取り組む態度	(一部変更)市調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を全学年90%以上にする。	分析の通り ⇒ 個別最適な家庭学習課題の設定をしていく。